

環境問題シリーズ 第7章

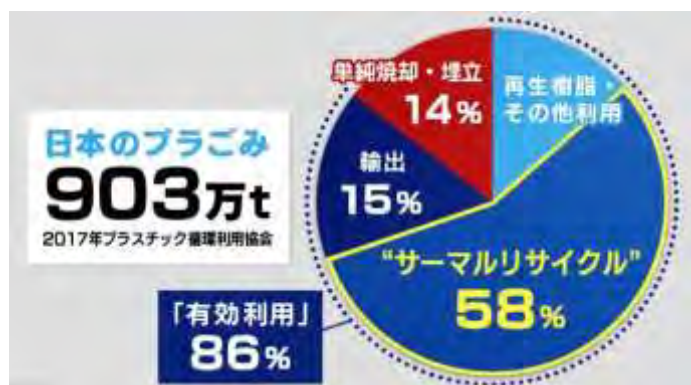
プラゴミによる海の汚染の恐怖

地球環境に学ぶ 塚本 二郎

<はじめに>

2019.11.22 午後ところざわ倶楽部の総会の後に環境講演会を開催しました。内容は海洋プラスチック問題で、講師に「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク運営委員長の中井八千代氏」をお迎えし熱心な講演を頂きました。

当時、世界的にこの問題は関心が高く、国によってはプラスチックストローを紙製にとか、レジ袋を廃止するとか話題は豊富でした。



NHK<時事問題がわかる><トップニュースが1からわかる><1からわかる!プラスチックごみ問題> より

その後、コロナ禍の問題で水を差されたような感じになっていましたが、最近になってNHKで下記の番組があり、その紹介と今後の対策としてプラスチック新法案（プラ製スプーン、フォーク等の有料化、来年4月に施行予定）についても考えていきたいと思えます。

<NHK スペシャルの放映 2021.2.28>問題点・感想

○海鳥の雛。胃の中に体重の1割のマイクロプラの誤食に苦しむ場面があり、栄養不足なのか「重要なメッセージ。」



ひな鳥のお腹の中から出たプラスチック
映画「プラスチックの海」より

○未来への分岐点 10年後の2030年 今後10年以内に進むべき道を決める必要あり。

○マレーシアのプラスチックリサイクル工場で火災。

2年で20件放火? 付近住民の呼吸器系の疾患。

○放火の後には不法投棄。非衛生的なプラゴミの山。

○日本はごみ焼却が主流、他の国は埋立てが多い。

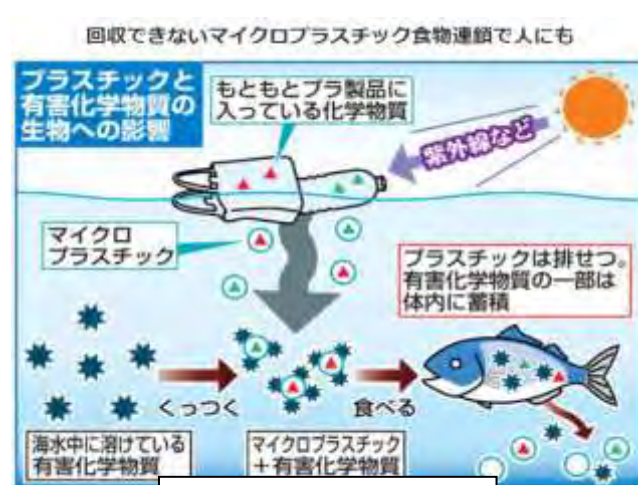
○海流に乗って日本のごみは太平洋・ハワイへ、

韓国・中国のごみは日本へ来ている。



プラスチックを取り巻く国内外の状況 環境省 2018年8月

○プラスチックの添加剤の問題 難燃剤、可塑剤、紫外線吸収剤等が使われ有害物質を魚介類が誤食した場合食物連鎖で頂点の人間?まで及ぶのか、もしくは生態系まで崩すのか。(漁獲量の心配もある)



日刊スポーツHPより

<今後の対策>

○プラスチックと自然界が共存するのは難しい。使用を極力減らしCO₂発生を抑制すべき。拡大生産者責任において廃棄時の処理方法を考えた新設時の配慮が必須。

○バーゼル条約の遵守。当然、自国での処理になっていくのではないかと